

皆さん、こんにちは。文化財課の児玉です。今回から私の得意分野である考古学に関する情報をお伝えしていきたいと思います。

青森市内には、国特別史跡「三内丸山遺跡」や国史跡「小牧野遺跡」「高屋敷館遺跡」「浪岡城跡」（中世）といった遺跡が400か所以上も確認されています。このような遺跡は、遺跡の内容などを把握するための部分的な発掘調査（学術調査）のほか、建築や土木工事等でやむを得ず遺跡を現状のまま保存できない場合にも事前に発掘調査（緊急調査）を行って遺跡の記録を残しています。

「発掘調査」は、地下に埋もれた遺跡を掘り出して、昔の人々の生活の様子を調べることで、その作業は宝探しのようにとてもワクワクしますが、単に土から遺物を掘り出すのではなく、遺構・遺物の関係性を追求し詳細に記録することが重要です。

近年の発掘調査には、考古学の専門家だけではなく、より詳細な分析が必要とされることから人類学、動物学、植物学、地質学、文献史学、建築学、保存科学などの専門家を動員した学際的な内容が求められています。

それでは、実際にどのようにして発掘調査が実施されるのか順を追って説明しましょう。

- (1) まず、遺跡の表土を取り除きます。遺構や遺物を壊さないように、重機→スコップやジョレン→移植ゴテや竹ベラと、道具を変えながら、丁寧に掘っていきます。
- (2) 遺構の底まで掘り下げたら、土の層の重なりを観察し、土層図をつくります。土層図をつくることで、重なった遺構のどちらが新しいかなどわかります。
- (3) まとまって出土した遺物や遺構の床面に接した遺物は、周りを丁寧に掘り下げ、写真を撮り、出土状況図をつくります。その後、遺物を取り上げて（出土年月日や出土地点等を記録した）遺物カードと一緒にポリ袋に収納します。
- (4) 遺構の上の土を完全に取除いたら、その様子を写真に撮ります。最後に掘り終えた遺構を測量し、平面図などをつくります。

おおむねこれらの作業を繰り返し、遺跡の発掘調査を進めていくわけですが、そして、すべての作業が完了し、発掘調査で記録した成果を『発掘調査報告書』という本にまとめ、発掘調査の一連の業務が終了します。

さらに、遺跡の調査結果を広く市民の皆様知ってもらうため、現地見学会の開催や発掘調査の担当職員が遺跡の調査結果を映像や資料を用いて説明する遺跡報告会も開催しています。